



質問 県では現在、都市計画区域マスタープランへの見直しを進め、北陸自動車道福井北インターチェンジ近辺が、さらに流通業務地などの需要が高くなり、計画が具体化された場合には、市街化区域への編入を検討するとしている。現在、隣接する永平寺町や県との協議はどのようになっているのか。今後の方向性は見出してきているのか。

商工労働部長 県及び隣接する永平寺町との協議状況は、同地域の物流拠点としての開発の可能性について意見交換を行っているが、現時点では、具体的な方向性を見出すまでには至っていない。

質問 本市の産業用地整備に対する考え方は、大変慎重である印象を強く感じているが、企業からすれば、コスト、時間の短縮は絶対条件であり、IC周辺に適地を求めてくる企業は少なくない。将来を見据えた産業拠点整備と雇用拡大を目指し、機能的な開発を進めるべきと考えるが、所見を伺う。

商工労働部長 同地域は、物流拠点として利便性が高く、今後、中部縦貫自動車道の開通により関西及び中京エリアからの物流の結節点となり、さらなるアクセスの向上が見込まれる地域である。これまでも同地域での立地を希望する物流企業からの問い合わせがあり、福井北インター流通センターには、県外企業から複数の引き合いがある。福井北IC周辺は広域高速交通の利便性を発揮できる重要な産業用地の候補地と捉えている。現在、開発手法の検討を始めており、進出の可能性のある企業の情報収集を進めている。なお、同地域は市街化調整区域で、かつ、農振農用地であるなど土地利用の規制が厳しい地域であることから、都市計画や農林部局等との協議も進めながら市街化区域への編入に向けて検討を進めていく。

質問 本市においては、交通安全教育及び地域や学校の実情に応じた通学路の安全点検を実施しているが、100%安全が確保され安心して通れる通学路こそ福井市が目指す「人にやさしいまちづくり」であると考えている。通学路の安全確保に対する今後の取り組み方針や考え方は。

教育部長 これまでも通学路に関する課題について、各小・中学校と密接に連携をとりながら対策を講じてきた。今後も交通規制や道路環境、交通安全施設の整備が必要な場合には、各学校や地元警察、関係機関と協議を行い、適切な措置が講じていく。

質問 安全点検は小学校区が基本となっている。中学校から危険箇所点検等の報告を求めたことはあるのか。

教育部長 中学校や中学校PTAからの通学路に関する要望があった場合には、随時関係機関と調整を行うなどの対応を行っている。また、全小・中学校において、作成している安全マップにより危険箇所を確認し、交通危険箇所だけでなく、犯罪発生危険性がある箇所なども表示したものを保護者に配布したり、授業に活用することで、通学路の危険箇所の共通理解を図り注意喚起している。

質問 幅員が狭く、危険回避する代替の道がない大東中学校直近の道路について、昨年、学校関係者、自治会連合会長、地元の関係者、福井警察署、そして本市の関係各課により勉強会を開催し対策を検討した。しかし、今現在も何の進展も見られない。市としてどうしていくのか、今後の対応は。

建設部長 短期的対策として自転車の通行量の少ない道路を通学路に変更するため、県道吉野福井線、通称さくら通り沿いに信号機を新たに設置すること、長期的対策として大東中学校の東側を南北に通る市道の一部区間について、学校がある西側のみ新たに歩道を設置することを方針としてまとめた。このうち、長期的対策であります歩道整備には、本市としましては用地買収など多額の費用を要するので、国庫補助金の活用を含めた取り組みが必要であり、事業着手まで時間を要すると考えている。まず、交通量調査等を実施し、課題を整理したい。

12月3日～12月25日

平成25年12月定例会が開催されました。



福井市議会議員

いずみ

あんなこと

こんなこと

泉かずや

mail: izumikazuya.civ@gmail.com



一般質問より

問 降雪などの気象条件に左右されない植物工場を建設する場合の課題は

答 植物工場はパイプハウスに比べ、特に電気料金などのランニングコストが大きい事や年間の出荷先を確保することが大きな課題と言える

問 自治会、各種団体の自主自立に向け支援する取り組みとして、団体支援員設置補助金があるが、支援員を設置した地区が少ないと聞いている。この制度をどのようにとらえているのか

答 補助金の申請件数は3件です。団体間の連絡を行う組織及び人員の確保が困難なこと、地域コミュニティの活動はボランティア性が強く手当の支出を伴う事務員を置くことに抵抗があったのではないかと

産業活性化対策特別委員会より

問 IT関連や、繊維産業に関わりの深いデザイン関連など、ソフト事業に対する支援が講じられていないのではないかと

答 IT関連やデザイン関連に対する支援など、新たな産業に対する補助制度のあり方を検討している

ブログより抜粋 12月19日「12月定例会予算特別委員会」

12月18日19日の二日間にわたり、予算特別委員会が開催されました。予算特別委員会は、各会派の議員数によって質問できる人数が決まっています。私の所属する一真会は4人の枠があり、12月は私と谷口 健次議員、見谷喜代三議員、田中 義乃議員が質問に立ちました。事前に会派内で質問内容を確認し、同じ質問をしないよう調整、打ち合わせをします。時には自分が調査してきた事柄を他の議員に頼む場合もあります。今回、一真会は、①ガス事業の経営の展望について② ガス事業の料金改定について③ 土地利用について④ 農林水産業政策について⑤ サービス付き高齢者向け住宅について⑥ 資源物及び廃棄物(ごみ)処理について⑦ シティプロモーションについて⑧ 中心市街地の活性化について、質疑を行ないました。

中心市街地の問題から近郊地域、郊外の問題。観光やまちづくり、農業、ごみ、高齢者福祉関連など、幅広くバランスのとれた質疑であったと思います。(教育関連はなかったけれど。)新聞報道などによると、中心市街地の中央公園や西口広場のモニュメントの問題がすぐ取り上げられますが他にも、いい質疑がありました。

12月13日、**経済企業委員会**が開催され、福井市国民宿舎鷹巣荘の耐震補強工事と改修工事の請負契約と完成後の利用料の改定、農地災害復旧工事に伴う補正予算などを審議しました。福井市国民宿舎鷹巣荘は、耐震補強及び改修工事のため平成25年3月31日をもって休館しており、リニューアルオープンは平成26年秋を予定しています。



ホームページもご覧ください

泉和弥

検索

<http://izumikazuya.jp>